

Press Release

プレスリリース

2008年11月20日

株式会社日本医療データセンター

報道関係各位

日本医療データセンター 『JMDC データで読むヘルスケアレポート』 vol. 12

生活習慣病の患者は、腎臓病の発症率が8倍、透析は6倍にも ～病気の連鎖 腎臓から心臓、脳へ～

医療データベースの構築・分析及び健康保険組合へのソリューション提供を行う、株式会社日本医療データセンター（東京都千代田区、代表取締役：木村 真也）が今月実施した調査によると、生活習慣病罹患者と罹患していない人で、「慢性腎疾患発症率」と「人工透析導入率」を比較したところ、罹患者のほうが、腎臓病発症率、人工透析導入率とも高いということがわかりました。腎臓病発症率で約8倍、透析導入率で約6倍と、深刻な疾病に罹患するリスクが増加することがレセプト*データの解析により明らかになりました。

この調査は、男女30～59歳を対象に163,928人のレセプトデータから、糖尿病・脂質異常症・高血圧などの生活習慣病有無別に慢性腎疾患の発症率と人工透析導入率を比較しました。その結果から、生活習慣病罹患の方が腎臓病発症率約8倍、人工透析導入率約6倍のリスクが高まることがわかりました。また、生活習慣病患者でかつ慢性腎疾患に罹患した人は心疾患の併発率が14.2%で、腎疾患を罹患していない人の約2倍に及んでいます。糖尿病・高血圧症・脂質異常症等の生活習慣病は、血液の質の悪化から連鎖的に進行し、腎臓や心臓、脳といった細い血管を蝕んでいきますが、その実態は医療データからも証明されました。

*レセプト 診療報酬明細書のこと

この分析から、北里大学医学部 佐藤敏彦准教授（公衆衛生学）は、以下のようにコメントしています。

「生活習慣病の怖さが実感しにくいのは、これといった症状がなく進行していくからでしょうか。悪い生活習慣の影響は全身にいきわたる血液を介して静かに、そして着実に全身の臓器を蝕んでいきます。血液を濾過する臓器である腎臓には血管がたくさん存在するため血管を傷めつける高血圧症や糖尿病などの生活習慣病を発症している人は特に注意が必要です。定期的に健康診断を受けるなどして、早期発見・早期予防を心がけましょう。血糖値高め、血圧高め、脂質高めと指摘されたら、今すぐ生活スタイルの改善を始めましょう。」

■ 本件に関する問い合わせ先

株式会社日本医療データセンター ヘルスケア事業部 担当 小沼・大澤

メールアドレス: FAQ@jmdc.co.jp (TEL):03-3511-6781 (FAX):03-3511-6782

Press Release

プレスリリース

◆資料

■生活習慣病有無別 腎疾患発症率と人工透析導入率の比較

生活習慣病有無	人数	慢性腎疾患患者数	人工透析導入者数
有り	22,731 人	1,767 人	63 人
無し	141,197 人	1,465 人	68 人

※対象期間において、レセプト上に慢性腎疾患に該当する病名の記載があった人の割合と、人工透析に該当する診療行為の記載があった人の割合。

※生活習慣病: 高血圧症、糖尿病、脂質異常症

(分析期間: 2007 年 3 月～2008 年 2 月 分析対象: 30～59 歳の男女 163,928 人のレセプトデータ)

■生活習慣病患者で慢性腎疾患有無別 心疾患併発率の比較

腎疾患有無	生活習慣病患者数	心疾患併発患者数	併発率
有り	1,767 人	251 人	14.2%
無し	20,964 人	1,547 人	7.4%

※対象期間において、レセプト上に心疾患に該当する病名の記載があった人の割合。

(分析期間: 2007 年 3 月～2008 年 2 月 分析対象: 30～59 歳の男女生活習慣病 22,731 人のレセプトデータ)

■関連情報

メタボリックシンドローム対策レシピ「Pep! eco-recipe(エコレシピ)vol.18」に詳しい情報が掲載されています。

詳しくはこちら: <http://www.jmdc.co.jp/eco-recipe>

◇JMDC データで読むヘルスケアレポートとは

株式会社日本医療データセンターが、月 1 回発表するレポートで、同社独自の技術を用いた JMDC データ*を利用して、リアルな患者のデータから、日本人の健康や疾病の傾向を分析するものです。

*JMDC データ: 株式会社日本医療データセンターが約 33 万人(2007 年 11 月現在)の健康保険組合加入者から収集した健康診断の情報やレセプト情報を解析したデータ。個人を特定しないよう加工され、時系列での処理が可能のため、治療の経過などを疫学的に検証することが可能。

◇日本医療データセンター(<http://www.jmdc.co.jp/>)

個人を特定しない医療データ生成・分析を行うことができる、日本で初めての会社として、健康保険組合および製薬会社などにデータ活用ソリューションを提供しています。かつては個人情報の問題と、医療機関ごとに異なる用語やフォーマットによりデータとして利用することが難しかったレセプトですが、日本医療データセンターでは、これまで約 1,080 万件(2008 年 3 月末時点)のレセプトデータの処理実績で培ったノウハウから、傷病、医薬品、診療行為、投薬などの分析マスターを独自で作成いたしました。本年 4 月から開始された特定保健指導の本格的実施により、データの基盤整備と解析手法のニーズが拡大していきます。日本医療データセンターは、こうした施策を改善に繋げるために、「データによる検証」を提言し一翼を担ってまいります。